

School Amenity

9

Vol.36/No.426

2021

VOI-X

(一社)まなびやづくり研究所 会誌

New Face21

地域の思いでつくられた小学校。145年目に4代目校舎が完成

品川区立城南小学校・城南幼稚園(東京都)

学びの変化に柔軟に対応できる高機能な新校舎の完成

品川区立後地小学校(東京都)

日本建築学会 教育施設小委員会

連載 学校建築 タテ・ヨコ・ナナメ | No.5

COVID-19 が日本の学校建築に与えた影響と今後の学校空間の展開

LIFE-LONG LEARNING SPACE

生涯学習空間



商業施設空間づくりのノウハウを学校施設に 産学連携ワークショップ、 「Semba Ethical Design Thinking」(センバ・エシカル・デザイン・シンキング) による新たな学び舎づくりへの挑戦

株式会社船場 WEST 事業本部 Culture & Communication デイビジョン
 デイビジョンリーダー 経営学修士 (MBA) 一級建築士

秋吉健司

当社は、多様な学びとコミュニケーションの場づくりによって、学び舎におけるリアルな場の価値を高め、継続して利用される学び舎づくりに挑戦している(8月号掲載)。今回は、児童や生徒と当社社員とが、共に学び創造する産学連携ワークショップと、学び舎を含む全ての空間創造に思いやりの視点を持ち、人・地球・環境のこれからの再考する事から始める当社のデザインにおける考え方「Semba Ethical Design Thinking」(センバ・エシカル・デザイン・シンキング)を紹介する。

産学連携ワークショップ

文部科学省の学習指導要領改訂(2017)¹によると、児童や生徒が

社会と連携・協働しながら、未来の創り手となる為に必要な資質・能力を育む事が目標に挙げられている。そして、産学連携教育の教育的意義を研究した李・福留(2017)²の研究レポートによると、産学連携教育の教育的意義は、企業人が複数の立場から関与することで、現実社会の構成に似た環境を生み、その中で学ぶ学生の意識を変え、学生が社会課題の解決に取り組む環境を準備することに加え、学生の成長と企業人の若手実務者の育成を共に可能にすることにある、とされている。当社はこのような社会的使命や産学連携の教育的意義に共感し、学び舎の空間づくりを受託した際、産学連携ワークショップを実施することがある。

学び舎をデザインする ワークショップ

最初に紹介するのは、角川ドワンゴ学園のN高等学校代々木キャンパスで行われた、生徒自らが通うキャンパスをデザインするワークショップ「N高をつくろう!」である(事例①)³。同校では、生徒が自己の内面を認識し多様な他者と協同・協働しながら正解のない課題に取り組む⁴事を目的に、課題解決型学習(PBL)や職業体験を実施している。当社社員が講師となって開催されたこのワークショップは、首都圏4か所のキャンパスに通う33名の生徒が7つのグループに分かれ、3日間の中で、学び舎の問題や課題をピックアップし、それ

事例①

角川ドワンゴ学園のN高等学校代々木キャンパスワークショップ「N高をつくろう!」



ブレインストーミング風景

模型作成風景

プレゼンテーション風景

事例②

新渡戸文化小学校 VIVISTOP NITOBE ワークショップ「想像して、創造する」



アートボード作成風景

レイアウトのシミュレーション風景

アートギャラリー完成風景

を解決する空間デザインをグループで仕上げ、プレゼンテーションを実施した。空間デザインは専門性が高く、短期間でアウトプットをすることが非常に難しい為、当社の若手デザイナーがティーチングアシスタントとして各グループに参加して生徒をサポートした。最終日のプレゼン大会では全チームが白熱した発表を行い、参加した生徒全員が満足した3日間となった。教職員と当社社員は、共にワークショップの企画段階から協議を重ね、ワークショップを通じて生徒と共創しコミュニケーションを深めたことで、生徒の思いや課題を顕在化することが出来た。当社社員は、学び舎を完成させて引き渡した後に、生徒がどのように使用しているか、意図した使い方をしているか等のフィードバックを生徒から直接得たことで、学び舎づくりのノウハウを進化させ質の向上を図る事が出来た。

SDGsを考え創造する ワークショップ

次に紹介するのは、新渡戸文化学園の新渡戸文化小学校VIVISTOP NITOBEで実施された、小学校6年生がSDGsを「想像して、創造する」ワークショップである(事例②)⁵。今、世界には、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇等に起因する様々

な問題がある。このような問題を主体的にとらえ、人類が将来にわたり豊かな生活を確保出来るよう、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動として、「持続可能な開発の為の教育」(ESD: Education for Sustainable Development)⁶が日本から世界に向けて提唱されている。ESDはSDGsの目標4に取り込まれており、SDGs17全ての目標の実現に寄与することが国連総会で確認されている。ワークショップを開催した新渡戸文化小学校及び新渡戸文化学園では、従来から子どもたち起点のSDGs活動を積極的に推進する事で、持続可能な開発の為の教育を実践している⁷。今回のワークショップは、当社社員と、産業廃棄物由来マテリアルを利活用するスペシャリストの(株)モノファクトリー⁸の社員が講師となって行われた。ワークショップは児童たちが、新渡戸文化小学校へ至る通学路を、産業廃棄物を使い児童自らが作り出したアート作品で、アートギャラリーに生まれ変わらせることを目標として行われた。参加した児童はこのワークショップで、世界中より取り寄せた廃材を通じて環境問題を学び、廃材をアップサイクルして生まれ変わらせることで新たな価値を生み出すことを学んだ。参加した当社社員において

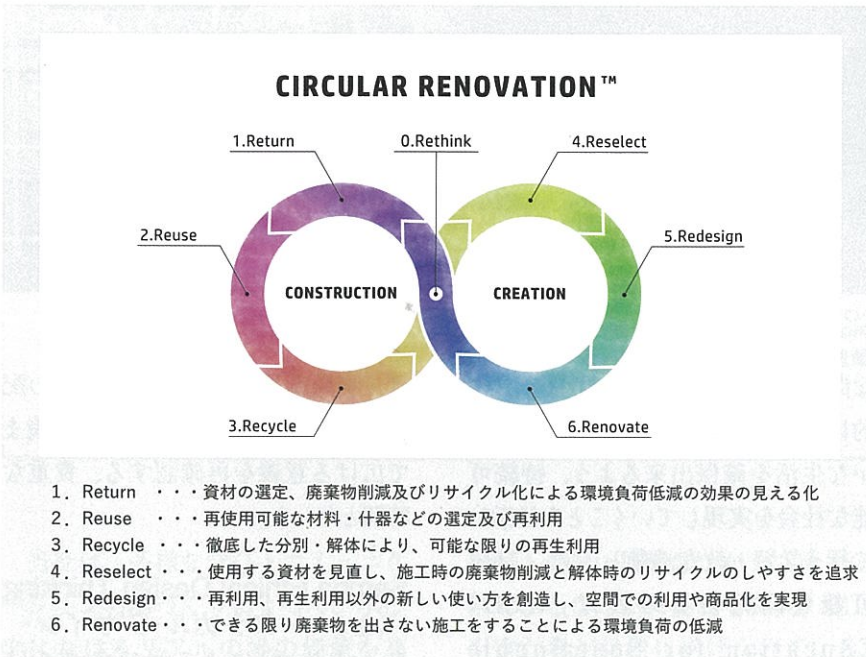
は、空間創造で培ってきた人への配慮や思いやりの姿勢を地球や環境まで広げる意義を再確認する、貴重な時間となった。

Semba Ethical Design Thinking (センバ・エシカル・デザイン・シンキング)による学び舎づくり

最後に紹介するのは「Semba Ethical Design Thinking」(センバ・エシカル・デザイン・シンキング)である(以降SEDT)。「SEDT」は、当社が企業改革の重要テーマとして全社で推進するエシカルデザインの考え方である。当社は空間創造で培ってきた人への配慮や思いやりの姿勢を地球や環境にまで広げ、その観点から全ての事業プロセスを一人ひとりが「Re-Think (リシンク・再考)」することにより、より良い社会の構築を目指している。そして当社は、「SEDT」の実現に向けた取り組みの第一弾として、(株)ナカダイ及び(株)モノファクトリー両社と業務提携し⁹、資材の調達から内装施工時に排出される産業廃棄物の削減と再資源化を一元管理する資源循環型リノベーションサービス「CIRCULAR RENOVATION™」(サーキュラー・リノベーション)の提供を2021年3月より開始した。このサービスの狙いは、リノベーションを行う際の

事例③

CIRCULAR RENOVATION™(サーキュラー・リノベーション)



素材の選定や、発生する産業廃棄物について重点的に分別を強化することにより、廃棄物そのものの削減及びリサイクル率の向上を実現し、施工時だけでなく、施工前後のCO₂を削減することにある。当社はこのサービスの実現に向けて、空間の企画・設計から、資材の生産・調達・施工・解体に至るプロセスを”Re-

Think“する。そして、環境負荷の低減と環境との共存を実現する為に”事例③“の1～6を検討し、実行することを業界に先駆けて行う。当社は、これらの取り組みを今後の学び舎づくりに取り入れることでCO₂を削減だけでなく、子どもたちが日常的に環境問題を考え行動する場を提供し¹⁰、環境負荷の低減と、豊かな

未来へつなげる環境づくりとの共存を実現していきたいと考えている。

8月号9月号に渡って当社の学び舎づくりを紹介してきた。今後も、変化し続ける教育現場において、商業施設空間づくりのノウハウを生かし、学校経営者及び教職員が抱える課題を解決すると共に、学びとコミュニケーションの場づくりに貢献する。そして、多様なクライアントが抱える課題の解決や思い描く空間の創造を第一としながら、生活者や利用者の居心地、更には地球環境の共存を実現する「GOOD ETHICAL PARTNER」として、より良い社会の構築の実現に向けて挑戦を続ける。

各事例の詳細は当社ホームページ (www.semba1008.co.jp) のポートフォリオを、また当社エンカルデザインに関する特設サイト「SEDT」(<http://sedt.jp>) をご覧ください。

株式会社船場

商業施設をはじめオフィスや教育・文化施設などの様々な空間創造において企画・設計・施工・メンテナンスまでをトータルでサポート。「働き方と考え方をTransformする」を基本戦略に、内装業界におけるデジタル・トランスフォーメーションを推進。「DX認定事業者」認定、第1回「TOKYOテレワークアワード」大企業部門大賞受賞。

- 引用：文部科学省、新しい学習指導要領の考え方—中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ—、2017
- 参考：李麗花・福留東土、大学経営政策研究第7号 71-87、産学連携教育の教育的意義に関する考察—IT分野における事例分析を手掛かりに—、2017.3
- 住所：東京都渋谷区／実施校：角川ドワンゴ学園N高等学校代々木キャンパス／実施時期：2019年8月
- 引用：(学)角川ドワンゴ学園N高等学校・S高等学校HP、職業体験・ワークショップ、https://nnn.ed.jp/learning/extracurricular_activities/workexp/、2021.7.21
- 住所：東京都中野区／実施校：新渡戸文化小学校内VIVISTOP NITOBE／実施時期：2021年2～3月
- 参考：文部科学省HP、国際統括官付、持続可能な開発の為の教育(ESD: Education for Sustainable Development)、<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm>、2021.7
- 参考：新渡戸文化学園HP、SDGsへの取り組み、<https://nitobebunka.ac.jp/about/sdgs/>、2017.7
- 参考：(株)モノファクトリーHP、<https://www.monofactory.com/>、2021.7
- 参考：(株)船場HP、NewsRelease、業界に先駆け資源循環型リノベーションサービスの提供を開始、[https://www.semba1008.co.jp/ja/release/news/news-20210312/main/00/teaseritems1/0/file/20210312_SEMBA%20ETHICAL%20NEWS\(CIRCULAR%20RENOVATION\).pdf](https://www.semba1008.co.jp/ja/release/news/news-20210312/main/00/teaseritems1/0/file/20210312_SEMBA%20ETHICAL%20NEWS(CIRCULAR%20RENOVATION).pdf)、2021.7
- 参考：県立学校学習空間デザイン検討委員会、長野県スクールデザイン2020～これからの学びにふさわしい施設づくり～最終報告書、(5)長期的な視点による施設整備計画、オ)環境教育への効果(SDGs等)、2020.8



角川ドワンゴ学園N高等学校・S高等学校 代々木キャンパス

OKAFKA photograph 塚田智一

空間創造に、思いやりの視点を。

私たちは1947年創業以来、商業やオフィス、学校や文化公共施設など、様々な空間創造において企画から設計、施工、メンテナンスに至るまでトータルでサポートしています。

近年、ICT化が進みリアルな「空間」の価値が見直される中で、今、本当に必要とされる「空間」の仕掛けやデザイン、施工方法とは一体何なのか。学校様の課題と真撃に向き合いながら、

人や地球、環境への思いやりの視点を持ちご提案します。

株式会社 船場

<https://www.semba1008.co.jp>

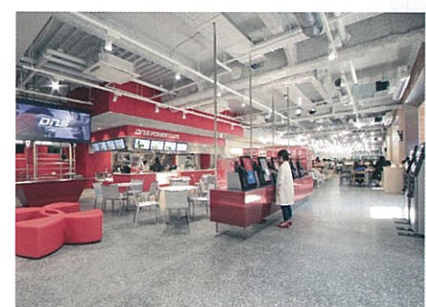


教育総合展 (EDIX) 東京への出展



2020・2021年教育総合展(EDIX)東京に出展しました。コミュニケーション促進型のブースを展開し、これからの教育空間を考えるウェビナーの開催や、産学連携でのカフェの運営等を行いました。

SEMBAの教育施設づくり



近畿大学 次世代型学生食堂 (DNS POWER CAFE)

保育園から大学に至るまで、それぞれのライフステージに合わせた教育空間創造を推進しています。最新実績や物件詳細は当社実績掲載サイト「PORTFOLIO」をご覧ください。 <https://semba-portfolio.jp/>

